平成１１年度落葉果樹関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人　日本植物調節剤研究協会

平成１１年度落葉果樹関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成１２年１月２８日(金)にサンレイク土浦において開催された。

この検討会には、試験場関係者６７名、委託関係者３８名ほか、計１０９名の参集を得て、除草剤１０薬剤(１２２点)、生育調節剤１２薬剤(８１点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成１１年度　落葉果樹関係除草剤･生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A. 除 草 剤

薬剤名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名 (品種)	試験の 種類 新・継 の別	試験実施場所 〈 〉=中間または 試験実施中(数)	試験設計 [対象雑草；ねらい] 処理時期 ；薬量g･ml〈水量ml〉／a ；処理方法等	判 定	内　容
1. CG-231GT ﾌﾛｱﾌﾞﾙ剤 (ﾚﾋﾞﾝGTﾌﾛｱﾌﾞﾙ) ｸﾞﾘﾎｻｰﾄｲｿﾌﾟﾛﾋﾟﾙｱﾐﾝ塩 14.4% ﾌﾞﾀﾌｪﾅｼﾙ 3.6%	ナ　シ	適用性 継　続	茨城農総試園研、 埼玉園試、 長野南信農試、 鳥取園試、 熊本農研果樹 (5)	[雑草全般] 春期及び夏期 雑草生育期(草丈30cm以下) ；40, 50, 60ml〈10ℓ〉 ；茎葉処理 対：ﾊﾞｽﾀ液剤　50ml〈10ℓ〉	実 ・ 継	実) [ナシ：雑草全般] ・春～夏期、雑草生育期 (草丈30cm以下) ・40～60ml/a〈10L/a〉 ・茎葉処理 継) ・草種と効果の確認
		薬　害 継　続	山形砂丘地農試、 石川農総研 (2)	[薬害試験] ①春期、夏期、秋期 120→120→120ml〈10ℓ〉 ②春期又は夏期　300ml〈10ℓ〉 ；土壌処理		
	カ　キ	適用性 新　規	山形砂丘地農試、 愛知農試園研、 岐阜農総研、 奈良果樹振興、 愛媛果試 (5)	[雑草全般] 春期及び夏期 雑草生育期(草丈30cm以下) ；40, 50, 60ml〈10ℓ〉 ；茎葉処理 対：ﾊﾞｽﾀ液剤　50ml〈10ℓ〉	継	継) ・効果の確認 ・薬害試験
		薬　害 新　規	愛知農試園研、 岐阜農総研 (2)	[薬害試験] ①春期、夏期、秋期 120→120→120ml〈10ℓ〉 ②春期又は夏期　300ml〈10ℓ〉 ；土壌処理		
	モ　モ	適用性 継　続	福島果試、 長野果試、 山梨果試、 岡山農試、 香川農試府中 (5)	[雑草全般] 春期及び夏期 雑草生育期(草丈30cm以下) ；40, 50, 60ml〈10ℓ〉 ；茎葉処理 対：ﾊﾞｽﾀ液剤　50ml〈10ℓ〉	実 ・ 継	実) [モモ：雑草全般] ・春～夏期、雑草生育期 (草丈30cm以下) ・40～60ml/a〈10L/a〉 ・茎葉処理 継) ・草種と効果の確認
(つづく)		薬　害 継　続	宮城園試、 秋田果試 (2)	[薬害試験] ①春期、夏期、秋期 120→120→120ml〈10ℓ〉 ②春期又は夏期　300ml〈10ℓ〉 ；土壌処理		

A. 除　草　剤　つづき

薬剤名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名 (品種)	試験の 種類 新・継 の別	試験実施場所 < >=中間または 試験実施中(数)	試験設計 [対象雑草；ねらい] 処理時期 ；薬量g･ml<水量ml>／a ；処理方法等	判定	内　　容
1. CG-231GT フロアブル剤 (つづき)	ウ　メ	適用性 新　規	茨城大学、 宮城園試、 群馬園試、 大阪農技、 徳島果試県北 (5)	[雑草全般] 春期及び夏期 雑草生育期(草丈30cm以下) ；40, 50, 60ml<10ℓ> ；茎葉処理 対：バスタ液剤　50ml<10ℓ>	継	継) ・効果の確認 ・薬害試験
[ノバルティス アグロ]		薬　害 新　規	群馬園試、 埼玉園試 (2)	[薬害試験] ①春期、夏期、秋期 120→120→120ml<10ℓ> ②春期又は夏期　300ml<10ℓ> ；土壌処理		
2. F－701 顆粒水和剤 カルフェントラゾンエチル 0.7% グリホサートアンモニウム塩 25.0%	ブドウ	適用性 継　続	岩手農研、 長野中信農試、 山梨果試、 愛知農試園研、 岡山農試 (5)	[雑草全般] 春期及び夏期 雑草生育期(草丈30cm以下) ；30, 40, 50 g<10ℓ> ；茎葉処理 対：バスタ液剤　50ml<10ℓ>	実・継	実) [ブドウ、ナシ：雑草全般] ・春～夏期、雑草生育期 (草丈30cm以下) ・30～50g/a <10L/a> ・茎葉処理 継) ・低薬量での効果の確認.
		薬　害 継　続	石川砂丘地農試、 大分農技 (2)	[薬害試験] ①春期、夏期、秋期 100→100→100 g<10ℓ> ②春期　　250 g<10ℓ> ；土壌処理		
	ナ　シ	適用性 継　続	埼玉園試、 長野南信農試、 高知農技果試、 長崎果試、 熊本農研果樹 (5)	[雑草全般] 春期及び夏期 雑草生育期(草丈30cm以下) ；30, 40, 50 g<10ℓ> ；茎葉処理 対：バスタ液剤　50ml<10ℓ>	実・継	
[エフ・エム・シー]		薬　害 継　続	石川農総研、 群馬園試 (2)	[薬害試験] ①春期、夏期、秋期 100→100→100 g<10ℓ> ②春期　　250 g<10ℓ> ；土壌処理		
3. F－702 液剤 カルフェントラゾンエチル 0.5% グリホサートイソプロピルアミン塩　20.0%	ブドウ	適用性 継　続	秋田果試、 山形園試、 栃木農試、 島根農試、 福岡農総試園研 (5)	[雑草全般] 春期及び夏期 雑草生育期(草丈30cm以下) ；40, 50, 60ml<10ℓ> ；茎葉処理 対：バスタ液剤　50ml<10ℓ>	実・継	実) [ブドウ、ナシ：雑草全般] ・春～夏期、雑草生育期 (草丈30cm以下) ・40～60ml/a <10L/a> ・茎葉処理 継) ・低薬量での効果の確認
[エフ・エム・シー]	ナ　シ	適用性 継　続	茨城農総試園研、 三重農技、 高知農技果試、 佐賀果試、 長崎果試 (5)	[雑草全般] 春期及び夏期 雑草生育期(草丈30cm以下) ；40, 50, 60ml<10ℓ> ；茎葉処理 対：バスタ液剤　50ml<10ℓ>	実・継	

A. 除 草 剤 つづき

薬剤名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名 (品種)	試験の 種 類 新・継 の 別	試験実施場所 〈 〉=中間または 試験実施中(数)	試験設計 [対象雑草;ねらい] 処理時期 ;薬量g･ml〈水量ml〉/a ;処理方法等	判 定	内 容
4. MON−96A 液剤 (ﾗｳﾝﾄﾞｱｯﾌﾟﾊｲﾛｰﾄﾞ) ｸﾞﾘﾎｻｰﾄｱﾝﾓﾆｳﾑ塩 41%	ブドウ	適用性 継 続	北海道中央農試、 青森りんご試 県南、 山梨果試 (3)	[一年生雑草] 春期及び夏期 雑草生育期(草丈30cm以下) ;25ml〈2.5、5 (少水量散布ﾉｽﾞﾙ)、10ℓ〉、 50ml〈5ℓ〉 ;茎葉処理 対:ﾗｳﾝﾄﾞｱｯﾌﾟ液剤 25ml 〈2.5ℓ(少水量散布ﾉｽﾞﾙ)〉	実 ・ 継	実) 前年通り [ブドウ、ナシ、オウトウ、モモ、ウメ、カキ、クリ:雑草全般] ・春〜夏期、雑草生育期 (草丈30cm以下) ・一年生雑草対象;25〜50ml/a 多年生雑草対象;50〜100ml/a 〈2.5〜5L/a(専用ﾉｽﾞﾙ使用)、 5〜10L/a〉 スギナ対象;150〜200ml/a 〈2.5〜5L/a(専用ﾉｽﾞﾙ使用) ・茎葉処理 継) ・スギナに対する効果の確認.
		適用性 継 続	北海道中央農試、 青森りんご試 県南、 長野中信農試、 (3)	[多年生雑草(ｽｷﾞﾅを除く)] 春期及び夏期 雑草生育期(草丈30cm以下) ; 50ml〈2.5、5 (少水量散布ﾉｽﾞﾙ)、10ℓ〉、 100ml〈5ℓ〉 ;茎葉処理 対:ﾗｳﾝﾄﾞｱｯﾌﾟ液剤 50ml 〈2.5ℓ(少水量散布ﾉｽﾞﾙ)〉		
		適用性 継 続	岩手農研、 群馬園試、 大阪農技 (3)	[スギナ;翌春調査を含む] 春期 生育期(草丈20〜25cm程度) ;150ml〈2.5、5ℓ〉、200ml〈5ℓ〉 ;茎葉処理 対:ﾗｳﾝﾄﾞｱｯﾌﾟ液剤 200ml〈5ℓ〉 (共に少水量散布ﾉｽﾞﾙ)		
	ナ シ	適用性 継 続	群馬園試、 埼玉園試、 佐賀果試 (3)	[スギナ;翌春調査含む] 春期 生育期(草丈20〜25cm程度) ;150ml〈2.5、5ℓ〉、200ml〈5ℓ〉 ;茎葉処理 対:ﾗｳﾝﾄﾞｱｯﾌﾟ液剤 200ml〈5ℓ〉 (共に少水量散布ﾉｽﾞﾙ)	実 ・ 継	
	オウ トウ	適用性 継 続	北海道中央農試 (1)	[一年生雑草] 春期及び夏期 雑草生育期(草丈30cm以下) ;25ml〈2.5、5 (少水量散布ﾉｽﾞﾙ)、10ℓ〉、 50ml〈5ℓ〉 ;茎葉処理 対:ﾗｳﾝﾄﾞｱｯﾌﾟ液剤 25ml 〈2.5ℓ(少水量散布ﾉｽﾞﾙ)〉	実	
(つづく)		適用性 継 続	北海道中央農試 (1)	[多年生雑草(ｽｷﾞﾅを除く)] 春期及び夏期 雑草生育期(草丈30cm以下) ; 50ml〈2.5、5 (少水量散布ﾉｽﾞﾙ)、10ℓ〉、 100ml〈5ℓ〉 ;茎葉処理 対:ﾗｳﾝﾄﾞｱｯﾌﾟ液剤 50ml 〈2.5ℓ(少水量散布ﾉｽﾞﾙ)〉		

A. 除 草 剤 つづき

薬剤名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名 (品種)	試験の 種 類 新・継 の 別	試験実施場所 〈 〉=中間または 試験実施中(数)	試験設計 [対象雑草；ねらい] 処理時期 ；薬量g･ml〈水量ml〉／a ；処理方法等	判 定	内 容
4. MON－96A 液剤 (つづき)	カ キ	適用性 継 続	和歌山果園試紀北 (1)	[一年生雑草] 春期及び夏期 雑草生育期(草丈30cm以下) ；25ml〈2.5、5 (少水量散布ﾉｽﾞﾙ)、10ℓ〉、 50ml〈5ℓ〉 ；茎葉処理 対：ﾗｳﾝﾄﾞｱｯﾌﾟ液剤 25ml 〈2.5ℓ(少水量散布ﾉｽﾞﾙ)〉	実	
[日本モンサント]	モ モ	適用性 継 続	山梨果試 (1)	[一年生雑草] 春期及び夏期 雑草生育期(草丈30cm以下) ；25ml〈2.5、5 (少水量散布ﾉｽﾞﾙ)、10ℓ〉、 50ml〈5ℓ〉 ；茎葉処理 対：ﾗｳﾝﾄﾞｱｯﾌﾟ液剤 25ml 〈2.5ℓ(少水量散布ﾉｽﾞﾙ)〉	実	
5. MW－851 液剤 (ハービー液剤) ﾋﾞｱﾗﾎｽ 18% [明治製菓]	スモモ	薬 害 継 続	埼玉園試、 大分農技 (2)	[薬害試験] ①春期、夏期、秋期 200→200→200ml〈10ℓ〉 ②春期 500ml〈10ℓ〉 ；土壌処理	実	実) 前年通り [スモモ：雑草全般] ・春～夏期、雑草生育期 (草丈30cm以下) ・一年生雑草対象；50～75ml/a 多年生雑草対象；75～100ml/a 〈10～15L/a〉 ・茎葉処理
6. S－482 ﾌﾛｱﾌﾞﾙ剤 ﾌﾙﾐｵｷｻｼﾞﾝ 10%	ブドウ	薬 害 継 続	石川砂丘地農試、 島根農試 (2)	[薬害試験] ①春期、夏期、秋期 24→24→24ml〈10ℓ〉 ②春期又は夏期 60ml〈10ℓ〉 ；土壌処理	－	(・薬害は認められなかった)
[住友化学工業]	ナ シ	薬 害 継 続	埼玉園試、 長崎果試 (2)		－	
7. S－878 顆粒水和剤 (ｸﾞﾗﾝﾄﾞﾎﾞｰｲWDG) ｸﾞﾙﾎｼﾈｰﾄ 12.0% ﾌﾙﾐｵｷｻｼﾞﾝ 1.2%	ブドウ	適用性 新 規	青森りんご試 県南、 山形砂丘地農試、 長野中信農試、 兵庫中央農技、 広島農技果樹 (5)	[一年生雑草] 春期及び夏期 雑草生育期(草丈30cm以下) ；30, 50 g〈10ℓ〉 ；茎葉処理 対：ﾌﾟﾘｸﾞﾛｯｸｽL液剤100ml〈10ℓ〉 ﾊﾞｽﾀ液剤 50ml〈10ℓ〉	継	継) ・効果の確認
(つづく)		適用性 新 規	青森りんご試 県南、 岩手農研、 長野中信農試、 兵庫中央農技、 広島農技果樹 (5)	[多年生雑草] 春期及び夏期 雑草生育期(草丈30cm以下) ；50, 100 g〈10ℓ〉 ；茎葉処理 対：ﾌﾟﾘｸﾞﾛｯｸｽL液剤100ml〈10ℓ〉 ﾊﾞｽﾀ液剤 50ml〈10ℓ〉		

A. 除 草 剤 つづき

薬剤名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名 (品種)	試験の 種類 新・継 の別	試験実施場所 < >=中間または 試験実施中(数)	試験設計 [対象雑草；ねらい] 処理時期 ；薬量g･ml<水量ml>／a ；処理方法等	判定	内容
7. S－878 顆粒水和剤 (つづき)	ナシ	適用性 新規	茨城大学、 栃木農試、 奈良果樹振興、 鳥取園試 (4)	[一年生雑草] 春期及び夏期 雑草生育期(草丈30cm以下) ；30, 50 g<10ℓ> ；茎葉処理 対:ﾌﾟﾘｸﾞﾛｯｸｽL液剤100ml<10ℓ> ﾊﾞｽﾀ液剤 50ml<10ℓ>	継	継) ・効果の確認
[住友化学工業]		適用性 新規	新潟園試、 栃木農試、 奈良果樹振興、 鳥取園試 (4)	[多年生雑草] 春期及び夏期 雑草生育期(草丈30cm以下) ；50, 100 g<10ℓ> ；茎葉処理 対:ﾌﾟﾘｸﾞﾛｯｸｽL液剤100ml<10ℓ> ﾊﾞｽﾀ液剤 50ml<10ℓ>		
8. SL－161 顆粒水和剤 (ﾂﾊﾞｻ顆粒水和剤) ｸﾞﾙﾎｼﾈｰﾄ 20.0% ﾌﾗｻﾞｽﾙﾌﾛﾝ 1.3% [石原産業]	ナシ	適用性 新規	茨城大学、 福島果試、 茨城農総試園研、 長野果試、 鳥取園試、 高知農技果試 (6)	[雑草全般] 春期 雑草生育期(草丈20cm以下) ；25, 30, 40 g<10-15ℓ> ；茎葉処理 対：ﾊﾞｽﾀ液剤 50ml<10-15ℓ>	継	継) ・効果の確認
9. WOC－01 液剤 (三共の草枯らし) ｸﾞﾘﾎｻｰﾄｲｿﾌﾟﾛﾋﾟﾙｱﾐﾝ塩 41%	カキ	適用性 継続	静岡柑試落葉、 岐阜農総研、 愛媛果試、 福岡農総試園研 (4)	[一年生雑草] 春期及び夏期 雑草生育期(草丈30cm以下) ； 25ml<2.5, 5ℓ(専用ﾉｽﾞﾙ)> 25 <10ℓ> 50 < 5ℓ> ；茎葉処理 対：ﾗｳﾝﾄﾞｱｯﾌﾟ液剤 25ml <2.5ℓ(専用ﾉｽﾞﾙ)>	実	実) 前年通り [カキ:雑草全般(ｽｷﾞﾅを除く)] ・春～夏期、雑草生育期 (草丈30cm以下) ・一年生雑草対象;25～50ml/a 多年生雑草対象;50～100ml/a <2.5～5L/a(専用ﾉｽﾞﾙ使用)、 5～10L/a> ・茎葉処理
		適用性 継続	長野南信農試、 三重植防、 岐阜農総研、 愛媛果試 (4)	[多年生雑草(ｽｷﾞﾅを除く)] 春期及び夏期 雑草生育期(草丈30cm以下) ； 50ml<2.5, 5ℓ(専用ﾉｽﾞﾙ)> 50 <10ℓ> 100 < 5ℓ> ；茎葉処理 対：ﾗｳﾝﾄﾞｱｯﾌﾟ液剤 50ml <2.5ℓ(専用ﾉｽﾞﾙ)>		
(つづく)		薬害 継続	岐阜農総研、 島根農試 (2)	[薬害試験] ①春期、夏期、秋期 200ml→200→200ml<10ℓ> ②春期又は夏期 500ml<10ℓ> ；土壌処理		

A. 除 草 剤 つづき

薬剤名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名 (品種)	試験の 種類 新・継 の別	試験実施場所 〈 〉=中間または 試験実施中(数)	試験設計 [対象雑草;ねらい] 処理時期 ;薬量g・ml〈水量ml〉/a ;処理方法等	判定	内容
9.WOC－01 液剤 (つづき)	ウ メ	適用性 新 規	宮城園試、 埼玉園試、 大阪農技、 徳島果試県北 (4)	[一年生雑草] 春期及び夏期 雑草生育期(草丈30cm以下) ; 25ml〈2.5、5ℓ(専用ﾉｽﾞﾙ)〉 25 〈10ℓ〉 50 〈5ℓ〉 ;茎葉処理 対:ﾗｳﾝﾄﾞｱｯﾌﾟ液剤 25ml 〈2.5ℓ(専用ﾉｽﾞﾙ)〉	実 ・ 継	実) [ウメ:雑草全般(ｽｷﾞﾅを除く)] ・春～夏期、雑草生育期 (草丈30cm以下) ・一年生雑草対象;25～50ml/a 多年生雑草対象;50～100ml/a 〈2.5～5L/a(専用ﾉｽﾞﾙ使用)、 5～10L/a〉 ・茎葉処理 継) ・効果の確認 ・薬害試験
		適用性 新 規	茨城大学、 宮城園試、 埼玉園試、 大阪農技 (4)	[多年生雑草(ｽｷﾞﾅを除く)] 春期及び夏期 雑草生育期(草丈30cm以下) ; 50ml〈2.5、5ℓ(専用ﾉｽﾞﾙ)〉 50 〈10ℓ〉 100 〈5ℓ〉 ;茎葉処理 対:ﾗｳﾝﾄﾞｱｯﾌﾟ液剤 50ml 〈2.5ℓ(専用ﾉｽﾞﾙ)〉		
[三共]		薬 害 新 規	宮城園試、 埼玉園試 (2)	[薬害試験] ①春期、夏期、秋期 200ml→200→200ml〈10ℓ〉 ②春期又は夏期 500ml〈10ℓ〉 ;土壌処理		
10.YF－65Ⓛ 液剤 (ﾌﾟﾘｸﾞﾛｯｸｽL)、 (ﾏｲｾﾞｯﾄ) ｼﾞｸﾜｯﾄｼﾞﾌﾞﾛﾐﾄﾞ 7% ﾊﾟﾗｺｰﾄｼﾞｸﾛﾘﾄﾞ 5%	ブドウ	薬 害 継 続	広島県立大学、 栃木農試 (2)	[薬害試験] ①春期、夏期、秋期 400→400→400ml〈10ℓ〉 ②春期又は夏期 1,000ml〈10ℓ〉 (共に展着剤加用)	実 ・ 継	実) 従来通り [ブドウ、モモ:一年生雑草全般] ・春～夏期、雑草生育期 (草丈30cm以下) ・60～100ml/a 〈10L/a〉 ・茎葉処理 継) ・多年生雑草に対する効果の確認
[ゼネカ]	モ モ	薬 害 継 続	広島県立大学、 徳島果試県北 (2)	[薬害試験] ①春期、夏期、秋期 400→400→400ml〈10ℓ〉 ②春期又は夏期 1,000ml〈10ℓ〉 (共に展着剤加用)	実 ・ 継	

B．生育調節剤

薬剤名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名 (品種)	試験の 種 類 新・継 の 別	試験実施場所 〈 〉=中間または 試験実施中(数)	試験設計 [ねらい] 処理時期 ；薬量g･ml〈水量ml〉／a ；処理方法等	判 定	内 容
1.AKD-8085 液剤 既知化合物 0.2%	モ モ	作用性 継 続	筑波大学 (1)	[摘花] (参考設計) ①開花30%時 (② 〃 50%時) ③ 〃 70～80%時 ；400, 300, 200倍液 ；立木全面又は枝別散布 対：無処理	継	継) ・効果、薬害の確認 ・成分未公開
		適用性 継 続	山形園試、 福島果試、 長野果試、 長野南信農試、 山梨果試、 和歌山果園試 紀北、 岡山農試 (7)	[摘花] ①開花30%時 (② 〃 50%時) ③ 〃 70～80%時 ；400, 300, 200倍液 ；立木全面又は枝別散布 対：無処理		
[アグロカネショウ]		適用性 新 規 (10年度)	長野果試 (1)			
2.ＣＳ－２Ｈ 水溶剤 (セルバイン) 硫酸カルシウム二水和物 57% 塩化カルシウム 27% その他 16% [白石カルシウム]	ナ シ (豊水)	適用性 新 規	千葉大学、 茨城農総試園研、 埼玉園試、 福岡農総試園研、 佐賀果試 (5)	[蜜症軽減] 満開１５日～２０日後より１０～１５日間隔で５回散布 (例；5/上、5/中、5/下、6/上、6/中) ；500, 400, 300倍液 ；枝別散布 対：無処理	継	継) ・効果の確認
3.ＤＮＫ－０１ 水溶剤 シアナミド 14%	ブドウ (施設)	適用性 継 続	〈広島県立大学〉、 〈石川砂丘地農試〉、 〈大阪農技〉、 〈大分農技〉 (4)	[萌芽促進] １１月～１月 ；30, 20, 15倍液〈20ℓ〉 ；全面散布及び塗布 対：無処理	継	(秋冬期処理検討会で判定済み(H10年度分))
[電気化学工業]		適用性 新 規 (10年度)	長野果試 (1)			
4.ＧＰ－０１１ 液剤 n-Propyl dihydrojasmonate(PDJ) 1% GA_3 1%	ナ シ (品種間差)	作用性 新 規	千葉大学 (2)	[果実肥大と品質に及ぼす影響] (参考設計) ；８００、４００倍液 ；立木全面又は枝別散布 対：GA_3 ペースト慣行量	－	
	ナ シ (二十世紀)	適用性 新 規	鳥取園試、 島根農試 (2)	[果実の肥大促進] 摘果終了後 ；８００、４００倍液 ；立木全面又は枝別散布 対：GA_3 ペースト慣行量	継	継) ・効果の確認
(つづく)	ナ シ (赤ナシ)	適用性 新 規	広島県立大学、 岩手農研、 大分農技 (3)		継	

B．生育調節剤　つづき

薬剤名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名 (品種)	試験の 種類 新・継 の別	試験実施場所、 〈 〉=中間または 試験実施中(数)	試験設計 [ねらい] 処理時期 ；薬量g･ml〈水量ml〉／a ；処理方法等	判 定	内　容
4.ＧＰ－０１１ 液剤 (つづき)	ブドウ (ﾃﾞﾗｳｪｱ)	作用性 新　規	山梨果試、 島根農試 (2)	[無核化・果粒肥大促進] １回目；花房浸漬 ２回目；立木全面散布 処理時期、濃度は別途協議	－	(・作用性試験で継続検討)
[ＧＰ研究会 ；日本ゼオン]	ブドウ (ピオーネ)	適用性 新　規	長野中信農試、 広島農技果樹、 福岡農総試園研 (3)	[無核化・果粒肥大促進] １回目；満開時(花房浸漬) ２回目；満開１０～１５日後 (立木全面散布) ① ８００→　８００倍液 ② ８００→１，６００倍液 対：ＧＡ25ppm→ＧＡ12.5ppm	継	継) ・効果の確認
5.ＫＴ－３０Ｓ 液剤 (フルメット液剤) ﾎﾙｸﾛﾙﾌｪﾆｭﾛﾝ　0.1%	ブドウ (ﾏｽｶｯﾄｵﾌﾞｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｱ ;施設)	適用性 継　続	島根農試、 岡山農試 (2)	[着粒安定] 満開時 ；２ppm ５ ；花房浸漬　　対：無処理	実	実) 前年通り [ブドウ(ﾏｽｶｯﾄｵﾌﾞｱﾚｷｻﾝﾄﾞﾘｱ;施設)：着粒安定] ・満開期 ・2～5ppm ・花・果房浸漬
[協和発酵工業]	ナシ (豊水)	適用性 新　規	千葉大学、 広島県立大学、 茨城農総試園研、 埼玉園試 (4)	[蜜症防止] 満開～満開３日後 ；　２ppm ５ １０ ；花そう散布　　対：無処理	継	継) ・効果の確認
6.ＮＢ－２７ 液剤 (フラスター液剤) ﾒﾋﾟｺｰﾄｸﾛﾘﾄﾞ　44%	ブドウ (巨峰; 無核)	適用性 継　続	長野中信農試、 山梨果試、 愛知農試園研、 兵庫中央農技、 長崎果試 (5)	[新梢伸長抑制；無核へ拡大] ①展開葉　８～　９枚 ②　　　　９～１０枚 ；５００倍液〈１０～１５ℓ〉 ；立木全面散布 対：無処理	実	実) [ブドウ(巨峰；無核)：新梢伸長抑制] ・展開葉8～10枚時 ・500倍〈10～15L/a〉 ・立木全面散布
	ブドウ (ﾃﾞﾗｳｪｱ; 無核)	適用性 新　規	秋田果試天王、 山形園試、 新潟園試、 石川砂丘地農試、 島根農試 (5)	[新梢伸長抑制] ①展開葉　７～　８枚 (ＧＡ処理３～４日前) ②展開葉１０～１１枚 (ＧＡ処理２～３日後) ；1,000,800倍液 〈10～15ℓ〉 ；立木全面散布 対：無処理	実 ・ 継	実) [ブドウ(ﾃﾞﾗｳｪｱ;無核)： 新梢伸長抑制] ・展開葉7～11枚時 ・800～1000倍〈10～15L/a〉 ・立木全面散布 継) ・薬害の確認 ・SS散布での濃度と効果の確認
[日本曹達]		適用性 新　規	山形園試 (1)	[新梢伸長抑制 ；ｽﾋﾟｰﾄﾞｽﾌﾟﾚﾔｰ散布] ①展開葉　７～　８枚 (ＧＡ処理３～４日前) ②展開葉１０～１１枚 (ＧＡ処理２～３日後) ；2,000,1,500倍液 〈20～25ℓ〉 ；立木全面散布 対：無処理		

B．生育調節剤　つづき

薬剤名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名 (品種)	試験の 種類 新・継 の別	試験実施場所 〈 〉=中間または 試験実施中(数)	試験設計［ねらい］ 処理時期 ；薬量g･ml〈水量ml〉／a ；処理方法等	判定	内容
7.ＮＢ－３２ 液剤 ﾘﾝ酸 7% 加里 6% ﾏﾝｶﾞﾝ 0.1% ﾎｳ素 0.6% 鉄 0.05% 銅 0.03% 亜鉛 0.03% ﾓﾘﾌﾞﾃﾞﾝ 0.053% [日本曹達]	オウトウ	作用性 継続	青森りんご試県南、 山形園試、 山形砂丘地農試 (3)	［着色促進、(硬度維持)］ ①落花10日後から10～14日間隔の２回散布 ②収穫開始１４日と７日前の２回散布 ③ ①+②の４回散布 ；１，０００倍液 (展着剤加用) ；枝別散布 対：ｻﾝｷｬｯﾁ液剤30S　300倍液 収穫開始14日・7日前２回散布 対：無処理	－	(・適用性試験に移行して検討)
8.ＰＤＪ 液剤 n-Propyl dihydrojasmonate 5%	ブドウ (巨峰 ;無袋)	作用性 継続	果樹試ｶｷ･ﾌﾞﾄﾞｳ (1)	［果実の成熟(着色)促進］ 別途協議	実・継	実)［ブドウ(巨峰);着色促進］ ・満開後35～40日 ・500倍 ・果房散布 継) 効果の確認
		適用性 継続	広島県立大学、 愛知農試園研、 福岡農総試園研、 長崎果試 (4)	［果実の着色促進］ 満開後35～40日の間 ；1,000, 700, 500倍液 ；枝別の果房散布 対：無処理		
[日本ゼオン]	ナシ (二十世紀)	適用性 新規	新潟園試、 鳥取園試 (2)	［摘花］ 鱗片脱落期 (開花始めの約１０日前) ；２００、１００倍液 ；枝別散布 対：無処理	継	継) ・効果の確認
9.ＲＩＣ－１ 液剤 (ケルパック６６) 海藻ﾎﾓｼﾞﾈｰﾄ	ブドウ	適用性 継続	青森りんご試県南、 栃木農試、 島根農試、 岡山農試、 福岡農総試園研 (5)	［さし木の根および地上部の生育促進］ 挿木時 ；原液1, 2, 3ml 〈3～5ℓ/うね長1m当たり〉 ；灌水処理 対：無処理	実・継	実)［ブドウ；さし木の地上部の生育促進及び根の発根促進］ ・さし木時 ・1～2ml〈3～5L/うね1m〉 ・灌水処理 継) 効果の確認
	ナシ (幸水)	適用性 継続	福島果試、 〈千葉農試〉、 佐賀果試 (3)	［苗木の根および地上部の生育促進］ ３～４月 原液１, 2, 3, 5ml/樹 〈水1～3ℓ/樹灌水〉 対：無処理 〈水1～3ℓ/樹灌水〉	継	継) ・効果の確認.
	モモ	適用性 継続	群馬園試、 愛知農試園研 (2)		継	
	ナシ (幸水)	適用性 継続	千葉大学、 埼玉園試、 〈愛媛果試〉 (3)	［果実肥大・品質向上等(連年処理)］ 本文参照	継	継) ・効果の確認（連年施用）
[ﾛｲﾔﾙｲﾝﾀﾞｽﾄﾘｰｽﾞ]	モモ	適用性 継続	福島果試、 富山農技果試、 香川農試府中、 福岡農総試豊前 (4)		継	

B．生育調節剤　つづき

薬剤名 (商品名) 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名 (品種)	試験の 種類 新・継 の別	試験実施場所 〈 〉=中間または 試験実施中(数)	試験設計 [ねらい] 処理時期 ；薬量g･ml〈水量ml〉／a ；処理方法等	判 定	内　容
10. TMP－951 水和剤 Aminoehoxyvinylglycine 15% [トーメン、 アグロカネショウ]	モモ (無袋)	適用性 新規	広島県立大学、 長野南信農試、 山梨果試、 和歌山果園試紀北 (4) 自主；山梨果試	[熟期遅延] ①収穫4週間前 ②　3 ③　2 ；5,000倍液〈50ℓ〉、 2,500　〈25ℓ〉 ；立木全面又は枝別散布 ；無処理	継	継) ・効果の確認
11. TS－303 液剤 2α,3α-dipropionloxy-22,23-epoxy-24-S-ethyl-β-homo-7-oxa-5α-cholestan-6-one 30ppm [タマ生化学]	オウトウ	適用性 継続	青森りんご試 県南、 秋田果試、 山形園試、 新潟園研、 長野果試 (5)	[着果率向上(花粉発芽率と花粉管伸長の向上)] 結実樹の満開予定10日前 ①結実樹、受粉樹　3,000倍液 ②結実樹、受粉樹　2,000倍液 ③結実樹、受粉樹　1,000倍液 ④結実樹、受粉樹　無処理 (同一濃度間で受粉) ；枝別散布	継	継) ・効果の確認
12. エテホン 液剤 (エスレル10) エテホン　10% [2,4-D協議会(日産化学、石原産業)]	ブドウ	自主	山梨果試 (H9, H10)、 長野果試 (H10, H11)、 島根果試 (H9, H10)、 岡山農試 (H8, H9, H10, H11) (4)	[落葉促進による結果母枝の充実] 収穫後せん定前 ；(100)、200、(400) ppm ；立木全面散布	実	実) [ブドウ：落葉促進] ・収穫後　剪定前 ・100～200ppm ・立木全面散布

編集後記

3月上旬～中旬にかけて九州、四国に上陸した桜前線は日本列島を縦断して、5月下旬に北海道北部のチシマザクラの開花で終わった。約3ケ月かかった。あらためて日本列島の春の訪れの時間差の長さを知らされた。それに較べて稲作は、5月を中心にして約1ケ月半ぐらいでほぼ日本列島全域で田植えが終わる。気候的には1ケ月半の短縮である。これは育苗や栽培技術の進歩、品種改良のお蔭である。現在の安定・多収の稲作がこうした科学技術に支えられていることを忘れてはならないことを痛感させられた。

今号から「水稲除草剤試験の手法」の連載をはじめた。第1回は雑草の種子・塊茎の採種と保存、調整、使用法を解説した。今後は除草剤試験の基礎的な事を、数回にわたって連載する予定である。除草剤試験に携わる方々に役立てば幸いである。　ひ